令和４年度　福島県立郡山東高等学校　　令和４年１１月　４日
進路だより　８号　　発行　郡山東高校進路指導部

３年秋は心身ともに一番キツイ…

焦らず,あきらめらず,着実に

ついに共通テストまで７０日となりました（１１月５日現在）。１０月から毎週のように模試が続いているうえ、推薦型選抜や総合型選抜の準備も加わってきているので、３年生にとっては心身共に最もきつい時期です。不安や焦りを感じている人も増えているのではないでしょうか。気持ちはよくわかります。時間はまだたくさん残されていますから、今は思うような結果が出なくても、絶対にあきらめないでください！あなたの今のがんばり、少し遅れて、実を結びます。本番に最高の状態に持っていければ良いのです。今はじっと我慢の時間です。必ず、続けてきて良かったと思える日が来ます。東高校の先生方もみなさんと一緒に頑張ります。適度な休息をとりながら、着実に前進していきましょう。

■共通テストまで70日・勝負はここから

1　この秋に受けた模試を徹底的に復習する

「基礎・基本問題」の得点率を確実に上げることで　目標に近づける

模試は、受験後にしっかりした復習をしてこそ価値があります。特に、正解率が低かった分野に関しては、しっかり時間をかけて取り組み、理解を完全なものにしておきましょう。また、模試の結果票から、分野別、設問別の得点率をよく分析し、どこが自分の失点のポイントになっているのか把握しておきましょう。そこが最重要の強化ポイントであり、そこを強化することにより総合点を上げることが可能になります。特に、基礎基本の問題を確実に得点できるように心がけましょう。それだけでも、結果が全く違ってきます。

2　苦手分野こそすみやかに強化せよ

まだ時間はある。今こそ先生方を有効活用しよう

まだ７０日も残されているのに、苦手分野から逃げている場合ではありません！今すぐ、克服に向けて行動をおこすべきです。苦手と分かっていて何も手を打たないでいたら、後にどれだけ後悔することか！気になっているところは、すぐに克服してすっきりしましょう。そして、自分一人で困っていないで、東高の先生方を有効に活用して下さい。そのために先生方はいるのですから。

☆ 2年生よ，意識を変えて行動を起こそう

自主的・継続的な「家庭学習」開始

２年生は「修学旅行」をもって高校生活も一区切りです。いよいよ、各自の進路目標に向かって行動を開始する時間が始まりました。全国の大学進学を目指す進学校は、２年秋から本格的な受験体制に移行していくのが常識です。ぜひ、本校生も、この動きに乗り遅れないようにしてほしいと思います。さて、先日行った進路希望調査の結果を見ると、２年生の家庭学習時間がかなり少ないことが分かりました。このままの状態では、大学入試に必要な実力をつけることはかなり難しいと言えます。もっと、それぞれが「危機感」を感じるべきでしょう。今、掲げている第一志望の大学に現役で合格していく人の多くは、２年のこの時期から本格的な勉強を始めていく人だと肝に銘じてください。

英数国　２年までの基礎をしっかり

1　「３教科バランス」の悪い人は要注意！改善しよう

大学進学を目指す進学校の生徒は「英数国」の３教科を重点的に強化していくのが標準的な勉強法です。この３教科は、大学入試での配点が高く、内容も豊富なので、時間をかけて勉強しないと実力を高めることが難しいという特徴があります。３年生から始めても、目標点まで伸ばしきることができずに終わる人がたくさんいます。ぜひ、２年生のうちから、本格的な勉強を始めましょう。

また、最終的に志望大に合格していく人は、英数国３教科の中に極端な苦手教科を持っていないという共通点があります。文系なら「英・国」、理系なら「数・英」の２教科の組合せを得意にできるとかなり有利になります。

2　日々の授業から自分で読んで考える勉強を実践する

共通テストの「英数国」は、２年次までに学んだ内容が出題の中心です。３年次には、問題演習を中心に進めていくことになりますが、３年夏までに基礎を固めておかないと、実戦的な演習を行うことができません。まずは、現在の授業とその予習・復習、課題や考査の反省などを大事にしましょう。ただ模範解答や解説を丸写ししていてはいけません。自分で読んで、自分で考える勉強を、日々実践していきましょう。それが現在の大学入試で求められる、読解力、思考力、表現力につながります。

3　理系の理科、文系の社会は将来の勝負科目になる

１１月の模試からは「理社」を加えた「５教科型」になりますが、あくまで家庭学習は「英数国」を最優先にすべきです。しかし、本校生の実態として「理社」の勉強を３年から始めたのでは間に合わないのも事実です。特に、「理系の理科２科目（物理＋化学、生物＋化学）」と「文系の社会（特に日本史Ｂ、世界史Ｂ）」については、「共通テスト」での配点が大きいうえ、「国公立大二次試験」や「私大入試」でも試験科目となるため大変重要です。２年次から「基礎づくり」を始めておく必要があります。今後の考査や模試を、貴重な理社の復習の機会と定めて、計画的に進めておくことで、３年までに基礎づくりができて効果的です。

特集　東高校は全員で英検チャレンジ

3年までに「２級以上」合格を目指す！

本校では、**３年次の第１回までに２級以上合格**を目指し、入学時から英検受験に取り組んでいます。次回は１月です。計画的に勉強をしていきましょう。

■ 過年度合格者数

※２０１８年度の１学年より全員受験開始

年　度	学　年	準２級合格者数	２級合格者数
２０１８年度	１年	１４１名	３名
	２年		
２０１９年度	１年	１５０名	
	２年	４３名	６９名
２０２０年度	１年	１４６名	４名
	２年	７８名	２３名
２０２１年度	１年	１００名	０名
	２年	５６名	１６名

＊２０２１年度は、２年生で準１級合格者が出ました！

■今年度第１回の結果

今年度は、経年比較をしてみると、かなり苦戦しています。次回に向けて、勉強方法を改善していく必要があると思われます。

全学年の合計

●２級　受験者　８７名
１次合格　２５名（１次合格率２９％）
合格者　１３名（２次合格率５２％）

●準２級　受験者　５５名
１次合格　３４名（１次合格率６５％）
合格者　２４名（２次合格率７１％）

◎ 英語科の先生よりアドバイス

受験結果の分析と今後の対策について

●２級の１次試験不合格者では、ライティングでスコアの低い人が多い。
（本校はこれまでライティングは比較的高い水準だった。）

●２級の２次試験の合格率が著しく低い。共通していることは、客観的な論述・発話ができないことである。１年生のうちから、「私事」と「一般論」を意識的に分けてエッセイの練習をすること。

1　大学入試における「英検」利用状況

知っていると得！　英検スコアを有効に利用しよう

生涯資格として就職や進学に有益な英検ですが、大学新入試では、年々利用大学が増加し、推薦選抜で５０％以上、一般選抜で約３０％が利用しています。

昨年度の本校３年生も、多くの人が英検を有効に利用して大学受験を行っています。中には、得点換算でかなり有利な点数を得て、関東の国立大に合格した人もいます。

Q1：　英検は大学入試にどのように利用できるの？

大学によって利用の仕方は様々ですが、主な利用タイプは以下の３種類です。

① 得点換算

級やスコアに応じて共通テストや個別試験の英語の成績に換算します。本番の得点と比較し高い方を合否判定に使ってくれるので、受験生の大きな味方となります。

② 加　点

級やスコアに応じて個別試験の得点に段階的に加点されます。大学によって点数は異なりますが、１点の差で合否が決まる一般入試では、最後のこの加点が合否を分けることになります。

③ 出願資格

ごく小数ですが、出願資格として英検を利用する大学も有ります。推薦選抜では「出願資格」として利用する大学が最も多く、一般選抜では「得点換算」での利用が主流です。

Q2：合格しないと意味がないのですか？

そんなことは、絶対にありません！

受験者全員の個人成績表に英検 CSE スコアが記載され、４技能ごとの学力到達度を確認することができます。準２級では 1728、２級では 1980 が合格ラインですが、茨城大や福島大でも、**級の合否にかかわらずスコアを基準に優遇しています。たとえ不合格でも最新の個人成績表は必ず保管しておきましょう。**（例えば、福島大の経済経営学類の公募推薦の出願条件には、一定以上の英検のスコアが必要）ただし、１次試験に合格しないと３技能 CSE スコアしか記載されないので基準をクリアするのは難しくなります。最低でも一次試験は合格したいものです。

2　本校1・2学年の「GTEC」の受験状況

英語４技能到達度を技能別に計る試験として、１年生は全員で、夏季課外中に「GTEC アセスメントテスト」を受験しました。２学年は、希望者を対象に、冬休み中に「ＧＴＥＣオフィシャルテスト」を受験します。

生徒一人一人に個票が配られるので、４技能のバランスを確認し、自分の得意な技能と苦手な技能を意識して、バランスよく技能を伸ばしていきましょう。